

2018.12.6 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

**駐平壤英国大使（現職）が最新の北朝鮮情勢を語る  
国際シンポジウム「北朝鮮の核問題の新局面と激動する北東アジア」を開催**

**～日本・韓国・中国の大学が共同実施～**

**日 時：2018年12月13日（木）10:00～18:00**

**会 場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム**

立命館大学アジア・日本研究所およびコリア研究センターは、朝鮮半島研究の分野において著名な東国大学北朝鮮学研究所（韓国）、吉林大学東北アジア研究院（中国）と共催で、研究者や一般の方を対象とした国際シンポジウム「北朝鮮の核問題の新局面と激動する北東アジア」を開催いたします。現職の在朝鮮民主主義人民共和国英国大使を招き、最新の北朝鮮情勢をお伝えいたします。

2018年に入り、これまで3度の韓国・北朝鮮の南北首脳会談、6月には史上初めて米朝首脳会談が行われました。いずれも北朝鮮の非核化に触れられ、核問題は新局面を迎えています。

本シンポジウムでは、3ヶ国それぞれの大学に所属する研究者が北朝鮮の核問題に関する現状や日本を含む北東アジアの安全保障体制のあり方、2国間・多国間協力の可能性について、4部構成で研究発表・討論（第4部のみ対談）を行います。北朝鮮の核問題によって日本を含む北東アジアがどのような影響を受けるのかについて、社会的理解を深める機会とします。

立命館大学アジア・日本研究所およびコリア研究センターでは、今後、3ヶ国にとどまらず、米国・ロシア・北朝鮮などの専門家を集めた国際シンポジウム・会議を定期開催し、研究成果を対外的に発信していく予定です。

## 記

**開催日時：2018年12月13日（木）10:00～18:00 ※受付 9時30分～**

**会 場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム**

**プログラム：別紙をご覧ください。**

**共 催：立命館大学アジア・日本研究所、立命館大学コリア研究センター  
東国大学北朝鮮学研究所（韓国）、吉林大学東北アジア研究院（中国）**

**言 語：韓国語、日本語（同時通訳）**

**そ の 他：参加費・事前申込不要、どなたでもご参加いただけます。**

**会場定員（120名）に達した時点で入場を締め切らせていただきます。**

※ご取材いただける場合は、前日までに下記までご連絡をお願いいたします。

以上

### ●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館アジア・日本研究機構 北朝鮮プロジェクト 担当：崔正勲（専門研究員）

連絡先：choi-j-h@fc.ritsumeimei.ac.jp

別紙

〔プログラム〕

第1部(10:20~12:00)「北朝鮮の核兵器高度化と非核化」

司会:高有煥(東国大学北朝鮮学研究所 所長)

【発表】① 崔正勳(立命館大学アジア日本研究機構 専門研究員)

② 韓在憲(東国大学北朝鮮学研究所 専門研究員)

③ 巴殿君(吉林大学東北アジア研究院 教授)

【討論】① 林恩廷(立命館大学国際関係学部 助教)

② 金榕炫(東国大学北朝鮮学研究所 教授)

③ 張慧智(吉林大学朝鮮韓国研究所 所長)

第2部(13:00~14:40)「朝鮮戦争の終戦と北東アジア安全保障環境の変化」

司会:張慧智(吉林大学朝鮮韓国研究所 所長)

【発表】① 総田芳憲(立命館アジア太平洋大学 教授)

② 金榕炫(東国大学北朝鮮学研究所 教授)

③ 王箫轡(吉林大学東北アジア研究院 教授)

【討論】① 中達啓示(立命館大学国際関係学部 教授)

② 巴殿君(吉林大学東北アジア研究院 教授)

③ 高有煥(東国大学北朝鮮学研究所 所長)

第3部(14:50~16:30)「北東アジアにおける地域協力の可能性」

司会:勝村誠(立命館大学コリア研究センター長)

【発表】① 文京洙(立命館大学アジア研究機構副機構長、特任教授)

② 朴喜辰(東国大学北朝鮮学研究所 専門研究員)

③ 朴英爰(吉林大学東北アジア研究院 教授)

【討論】① 森類臣(大谷大学 助教)

② 李京黙(東国大学北朝鮮学研究所 専門研究員)

③ 金香丹(吉林大学東北アジア研究院 博士後期課程)

第4部(16:50~18:00) 特別対談「なぜ北朝鮮はこれまで崩壊しなかったのか」

司会:中戸祐夫(立命館大学国際関係学部 教授)

対談:Alastair Morgan(駐平壤英国大使)

郭泰煥(米国イースタンケンタッキー大学名誉教授、元韓国統一研究院院長)

以上